

主 題：死からよみがえったイエス

聖書箇所：使徒の働き 2章24－36節、5章29－32節

イエス・キリストが十字架にかかって、葬られ、よみがえられ、そして天にお帰りになったその後、使徒ペテロは、群衆に対して最初のメッセージを語りました。使徒の働き2章にそのことが記されています。ペテロは人々に何を語ろうとしたのでしょうか？

### ☆ペテロの証言

彼は、このイエス・キリストがいったいだれなのか？そのことを明らかにしようとしたのです。彼は、〈イエスこそが真、唯一の神であり、キリスト、すなわち、救い主である〉ことを人々の前で語ったのです。ペテロは三つの証拠を挙げてイエスが真に神であり、救い主だと告げました。

### ◎イエスが真、唯一の神であり救い主である証拠

#### 1. キリストのみわざ 2：22－23、36

イエス・キリストはこの地上で様々な奇蹟を行なわれました。しかし、みことばを見た時に、そのイエスがなされた奇蹟は、父なる神が、イエスが真、唯一の神であることを証明するためになされたみわざであることを私たちは先週見て来ました。実は、父なる神がイエスを通して奇蹟を行われたのであり、その目的は、イエスが神であることを明らかにするためでした。父なる神がイエスを喜んでおられたことが明らかであり、そのことが示され証明されるのです。そうでなければ、その様なわざをイエス・キリストを通して神は為すことはなかったのです。イエスはこの地上でどのような証をされたのか？思い出してください。イエス・キリストは、人々の前で自分は神であることを明らかにされたし、自分が救い主であることを明らかにされました。また、イエス・キリストは神としての崇拜も受けられました。父なる神がそれを見て、それを知って、そのようなすばらしいみわざをイエス・キリストを通して為されたということは、父なる神がイエスの主張に対して、イエスの為されたことに対して喜んでおられた、その通り、確かに、あなたは真の神であり、確かにあなたはキリストであると言われたのです。だからこそ、その様なわざを神は為されたのだとペテロは告げたのです。ですから、イエスが神であること、キリストであることの証拠としてペテロが最初に挙げたことは、イエスが為された様々なみわざです。そのことがこの22節に記されていたのです。

#### 2. イエスの復活 2：24－32

ペテロはこれら一連の出来事を目撃者でした。イエスは人々の前で苦しみを受けられました。鞭打たれ、その肉体からは血が溢れ出しその肉は裂け、そして体中が血だらけでした。そのようにイエスが十字架にかけられ、そして十字架の上で処刑され、息を引き取られていった、そのことを全て見ていました。そしてその後、イエスは墓に葬られ、その後、敢然とその死からよみがえって来られたということを目撃したのでした。パウロが言う様に、そのことを目撃者はペテロ以外にも500人以上いると、パウロ自身が1コリント15：6で教えています。「その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。」。イエス・キリストは多くの人々の前に現われて、ご自分が肉体をもって復活されたことを明らかにされたのです。だから、イエスの弟子たちはそのことをいのちがけで証したのです。彼らのメッセージは「あの十字架にかかって死なれ、葬られたイエス・キリストは三日後に約束通りによみがえって来られた」ということです。使徒2：32「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」。他にも、3：15「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」、4：20「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」、5：31－32「そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。：32 私たちはそのことの証人です。」、このようにして、彼らが見たことを語っているのだと話をしますが、使徒25章を見ると、ヘロデ大王の孫アグリッパ王がその当時ユダヤの総督であったフェストの所にやって来て、パウロの人物像についてフェストがアグリッパ王に語っています。19節「ただ、彼と言い争っている点は、彼ら自身の宗教に関することであり、また、死んでしまったイエスという者のことで、そのイエスが生きっているとパウロは主張しているのです。」と、おもしろい証言が出て来るのです。イエスの弟子たちだけが「私たちは見た」と言っているわけではありません。ユダヤの総督であるフェストも彼らの証言を聞いていたのです、「イエスはよみがえった」と。ですから、こうして私たちは「使徒の働き」の箇所を見て行くと、それが彼らの

メッセージであったことが明らかです。そのことを彼らはいのちがけで伝え続けたのです。「イエスはよみがえった」と。

### ◎イエス・キリストの復活が証明すること

この当時の人々は、実際にイエスが墓に葬られるところを見ていました。そして、その墓が空になったことも知っていた人々です。もし、使徒たち、弟子たちの話がうそだと彼らが思っていたなら、そのことを彼らは示すことができました。「よみがえった」と言ってもイエスの体はここに有ると否定することができたはずですが、ところが、誰もそれをするのができませんでした。そして、ペテロは「イエスが復活された」、そのことに関して二つのことが明らかだと言います。2：24「**しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。**」、ここから二つのことをペテロは教えています。

#### 1) 父なる神のみわざである

神がイエスを死からよみがえらせたと言います。人間はイエスを殺した、けれども、「**しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました**」のです。この「**死の苦しみ**」と言うことばは「産みの苦しみ」と同じことばが使われています。陣痛が起こって出産までの間、母は苦しみます。そのことばがここで使われています、なぜ、そのことばが使われたか、出産を思い出してください。その苦しみは永続しません、一時的なものです。ですから、そのことばを使うことによって、イエス・キリストがお受けになったこの死の苦しみは永続するものではない、それは一時的なものであり、そしてそこから彼は解き放たれる、そこから解放される、自由にされる、そこからよみがえるということをペテロが言うのです。しかも、このわざは神がなさったみわざと言います。

イエス・キリストは実際に、十字架にかかる6ヶ月から1年ほど前から、弟子たちの前で、これからわたしはエルサレムで殺され、死後三日目に必ずよみがえるということを教えられていました。マタイ16：16でペテロが「**あなたは、生ける神の子キリストです。**」と告白をした後から、イエスは21節「**その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。**」とあるように弟子たちに教え始められるのです。そして、その後もイエスはそのことを話し続けられました。そして、ペテロが「あなた方も聞いたでしょう？見たでしょう？イエスの墓が空になっていたことを。あれは父なる神がイエスをその死から解放した、死からよみがえられたのだ」と告げるのです。父なる神がイエスを死からよみがえらせたということは、イエス・キリストが話されていたことを父なる神が喜んでお受けになっておられたからです。もし、イエス・キリストが偽りを言っているのなら、父なる神はどのようなみわざを成すことはなかったのです。しかし、父なる神が彼をよみがえらせたということは彼の言っていることが真実だったからです。彼の証言に対して、教えに対して父なる神は喜んでおられたからです。ですから、この出来事を通してペテロが教えようとすることは、父なる神がイエスを喜んでおられた証拠として、父なる神がイエスをよみがえらせたということです。

#### 2) 救世主に関する預言の成就である

「**この方が死につながれていることなど、ありえないからです。**」とあります。「**つながれている**」とは、捕らわれている、強い、支配するという意味で、「**死につながれている**」とは死がしっかり捕らえ続けるという意味です。そこでペテロは、どんなに死が強くて、どんなに強い力でイエスを死に留めておこうとしたとしても、イエスはその力に支配されるようなお方ではない、どんなに死が力強くて、イエスはそれに勝るお方であると言うのです。死がどんなに頑張ってもイエスを死に留めておこうとしても、それは不可能だと。なぜでしょう？それは、イエスが「神」だからです。ヘブル人への手紙2：14「**そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、**」と、救い主が肉体をもってこの世に来てくださったこと、そして、その死によって、悪魔という死の力を持つものを滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるのです。私たち人間は死に対してどうすることもできません。現実には、私たちは一日一日死に向かって進んで行きます。どんなに長生きしたいと思っても、この死の力に対してどうすることもできません。しかし、みことばが教えていることは、イエス・キリストはその死を経験されて、そして、その死に対して完全に勝利された、私たちは自分の力ではどうすることもできない、サタンの力をもってしてもイエスを留めるができなかった、なぜなら、イエスはこの死に対しても、サタンに対しても、その力に勝る力をお持ちのお方だということです。そのような力を持つお方とはだれでしょう？「神」です。神しかそのような力をお持ちの方は存在しないのです。そのことを

ペテロは言うのです。

Ⅰコリント15：55「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」、もうあなたは負けたのだ、このイエスによって完全に敗北したのだ、だから、私たちクリスチャンは、このイエス・キリストが死に打ち勝ったゆえに同じように勝利者だと宣言できるのです。私たちもいつか肉体的に死にます。でも、それで終わらないのです。イエスがよみがえったように私たちもイエスとともによみがえるのです。そのような希望を神が私たちに与えてくださった、なぜなら、私たちは勝利者として生まれ変わったからです。ですから、ペテロが言わんとしていることは、イエスがよみがえって来たというこの事実が明らかにすることは、「イエスが神、イエスが救い主だ」ということです。

もう一度、使徒の働きに戻って2：25-28節を見てください。ここには旧約聖書のダビデ王のことばが引用されています。これは、詩篇16：8-16の引用ですが、ことばが少し違っています、なぜなら、ヘブル語の聖書をギリシャ語に翻訳した70人訳聖書を使っているからです。25-28節からダビデはこの方についてこのように言っています。「私はいつも、自分の目の前に主を見ていた。主は、私が動かされないように、私の右におられるからである。：26 それゆえ、私の心は楽しみ、私の舌は大いに喜んだ。さらに私の肉体も望みの中に安らう。：27 あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず、あなたの聖者が朽ち果てるのをお許しにならないからである。：28 あなたは、私にいのちの道を知らせ、御顔を示して、私を喜びで満たしてください。』」、詩篇16篇を引用したペテロはその後、こう続けます。29-31節「兄弟たち。先祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。：30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。：31 それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体は朽ち果てない。』と語ったのです。」、ペテロはおもしろい解説をしてくれています。確かに、ダビデ自身がこのようなことを語りました。でも、ペテロが言っていることは、でも、これはダビデのことではない、なぜなら、ダビデは死んで、そして、その状態が今も継続している、死んだままで彼の墓は今ここにあるというのです。でも、この聖書の箇所が教えているのは、27節「あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず」と、この「ハデス」は旧約聖書のシェオル=墓の意味です。ですから、「ハデスに捨てて置かず、あなたの聖者が朽ち果てるのをお許しにならないからである。」と、つまり死んだままの状態で居続けることはない、そこからよみがえるということなのです。

そこでペテロは、確かにダビデはそうに言ったけれど、ダビデはまだよみがえっていない、彼の墓は残っている、だから、これはダビデのことではなく、別の人のことだと言うのです。そこで、30節「彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。」と、つまり、ペテロはダビデは預言者だったから、後に起こることを話したのだと言っているのです。この30節のみことばは、実は、神がダビデに与えた約束=契約です。そのことを指しています。そのことは、Ⅱサムエル7：11-16と、詩篇132：11に出てきます。つまり、この神がダビデに与えた約束、この契約が教えていること、それは、ダビデの子孫として救世主が生まれるという約束です。この約束を神はダビデに与えたのです。そして、ペテロは、神がダビデに与えた約束を引用することによって、その約束が成就したのだということを言いたかったのです。ダビデの子孫から約束通り救世主が生まれてきた、いったい、それはだれなのか？ペテロはそれはイエス・キリストだと言います。このイエスが約束の救い主だと言うのです。ですから、このイエス・キリストが死からよみがえって来たというこの出来事も、イエスが真の神であるということ、そして同時に、救い主であることを明らかにしたのです。F・Sブルースという神学者はこのように言っています。「イエスがメシヤであることは、バブテスマの時に宣言され、さらに復活によって確証された。」と。イエス・キリストがその死から敢然とよみがえって来たこの復活の出来事は、彼が主張しておられたように、彼が真の神であり、そして救い主であることを明らかにしたのです。

### 3. 聖霊の注ぎ 33-35節

「聖霊が注がれる」、それがイエスが神であることの証拠だとペテロは言っています。33-34節「ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。：34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。』と。聖霊が下ったという出来事はこの人々が実際に目撃したことでした。3000人以上の人々が集まって来たその理由はみことばが教えます。使徒2：6に聖霊が降るといふ出来事の後、「この物音が起こると、大勢の人々が集まって来た」と書かれています。この出来事があったから人々は集まって来たのです。そして、人々は彼らは酔っているのに違いないと思いました。人々はこの出来事

を目撃し戸惑ったのです。そこでペテロは「聖霊が降った」という出来事、それは「約束の救い主がこの世に来られた」ということを意味していると教えたのです。そして、彼は二つの旧約聖書のみことばを用いてそのことを証明しました。

#### ◎旧約聖書の引用によって

(1) **2 : 16-21** : 16節「これは、預言者ヨエルによって語られた事です。」と、この後の節はヨエル書に書かれてある神の預言が引用されています(ヨエル2 : 28-32)。17-21節「神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。:18 その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。:19 また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。:20 主の大いなる輝かしい日に来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。:21 しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』」、ヨエルの預言は「終わりの日」についてです。ヨエルは「終わりの日」にはこのようなことが起こると言い、そして、それをペテロが引用して、ヨエルが預言した「終わりの日」が、今まさに始まったと告げるのです。どのようなことが起こるのでしょうか？ 簡単に見ると二つのことがあります。

##### (a) わたしの霊をすべての人に注ぐ

すべての人に霊が注がれる、神の霊が注がれると、つまり、ユダヤ人だけでなく、異邦人の上にも神の霊が注がれる、すなわち、異邦人も救いにあずかるということです。ヨエルの預言を使ってペテロはまさにその時が始まったと言います。その後、使徒の働きを見ると、確かに、ユダヤ人でなく異邦人たちが救いへと導かれて行きます。

##### (b) 「主の日」

2 : 20「主の大いなる輝かしい日」、ヨエル2 : 31「主の大いなる恐るべき日」、主の日とは、一般的には「さばきのとき」で神のさばきを意味し、救世主が彼の王国を築くためにこの地上に再臨される時です。その時に「終わりの日」が完結を迎えます。さばきが来ます、ですから、2 : 21で「しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。」と言います。神のさばきがあるけれど、神は救いを与えてくださる、そのチャンスがあるうちに救いを受け入れるなら救われる、でも、そのチャンスを逃すと、必ず、そこにあるのはさばきしかないと言うのです。ですから、「終わりの日」というと、一瞬の出来事だけを連想するのですが、非常に時間の広いものです、救世主が来られて、そして、救世主が再び地上に帰って来られてさばきをもたらすまでは非常に長く、もう何千年も経っているのです。しかし、ペテロがここで言いたかったことは、いったい何が起こったのだろうとと思っている人々に対して、神の預言が成就し始めている、「終わりの日」がまさに始まったということです。それが、この2 : 16からヨエル書を用いてペテロが教えたかったことです。

(2) **2 : 34-35** : もう一つ旧約聖書の引用が出てきます。もう一度33節を見ると、ここでペテロは、今あなたかたが目撃した、聖霊が降る、注がれるという出来事を行なったのは、実は、イエス・キリストだと言っています。そして、34節から、詩篇110 : 1を引用してそのことを説明します。ダビデがこの詩篇110 : 1で語ったことは、「**わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。**」ということです。これはダビデのことではありません。先ほど見たように、ダビデ自身は墓に納められているからです。ですから、ダビデの預言というのは、だれか別の人によって成就した、それはだれか？それはイエスだと、ここで再びペテロが告げるのです。33節に「**神の右に上げられたイエスが、**」とあり、神の右に上げられた、父なる神は神の右の座にイエスを引き上げられたと言います。これをイエスの「高举」と言います。復活されたイエスはそこに行かれたのです。父なる神の右の座に着座されているのです。この「神の右の座」というのは名誉、栄光、力のある場所です。そこに今、父なる神はイエスを置いておられるのだと言っています。33節「**ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。**」と、ペテロがここで教えていることは、イエスがこの地上におられた時にあったことです。ヨハネ16 : 7に「**しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。**」とあります。助け主とはだれなのか？聖霊なる神です。「わたしが死んで去って行く、それはあなたがたにとって実はすばらしいことなのだ、なぜなら、わたしがあなたがたのために助け主を送るから、ということを書いておられるのです。そこでペテロは33節で、イエスが約束されていたように、その助け主を、聖霊を、送ってくれたのだということです。もし、イエスが天に上ったのでなければ、どうして彼は聖霊を送ることができるのでしょうか？今、墓の中にいるなら

どうして聖霊を送ることができるのでしょうか？彼は天に上ったから、父なる神の右の座に着座されたから、だから、彼はそこから約束されたように、聖霊なる神を注いでくださったと言います。父なる神は、イエス・キリストをご自身の右の座に引き上げられた、すなわち、それは、イエスに最高の名誉と栄光と権威をお与えになったのです。この結果、どうなったでしょう？

### ◎高举の結果

使徒5：29－32「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。：30 私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。：31 そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。：32 私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」と、ここでペテロは再び、父なる神がイエス・キリストをご自身の右の座に上げられたことを話します。そこで彼はもう少し説明を加えています。イエスをご自身の右の座に着座させられた父なる神はイエス・キリストをどのようなものとして見ておられるのでしょうか？二つのことが記されています。

(1) イエスを君とし：31節「このイエスを君とし」、イエスが「君」だからご自身の右の座に着座させることによって、イエスを君とされたのです。「君」ということばは新約聖書の中には4回しか出てこないことばです。導く人、創始者という意味です。使徒3：15には「いのちの君を殺しました。」とありますが、この「君」は欄外に別訳で「源」、「いのちの源である」と説明されています。だから信じる者にいのちを与えることができるのです。また、このことばはヘブル人への手紙12：2に「**信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。**」と「**創始者**」と使われています。この「**創始者**」のところにも欄外に注釈があって「**指導者**」と書かれています。つまり、イエス・キリストは、信仰の成長に助けを与え、導いてくださるお方だと言うのです。父なる神がイエスをご自身の右の座に着座させることによってイエスを「君」とされた、いのちの「源」として、いのちを与えることのできる方として、そして、いのちを与えられた者たちをしっかりと導いて行く、そのようなものにイエスをされたのです。

(2) イエスを「救い主」として：「救い主」、罪から、死から、さばきから救い出してくださるお方のことです。私たちをその罪から救ってくださる、あなたを永遠のさばきから救ってくださるお方に、そのような救い主に父なる神はイエスをされたのです。先ほどのブルースはこう言っています。「神はイエスに最高の名誉を与え、神の民を悔い改めの恵みと、赦しの賜物とをもって祝福する導き手、又、救い主として権威を付与し給うた」と。神はイエスに最高の名誉を与え、そして救いをもたらすもの、また、信仰を導くものとしての権威を彼に与えたと言うのです。

### ◎イエスを君とし、救い主とされた目的は？

31節「**イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために**」、神はイエスを通して人々の内に働かれ、そして、彼らの内に悔い改めと罪の赦しを与えてくださるのです。「悔い改めと罪の赦し」は切り離すことができないのです。つまり、悔い改めなくして罪の赦しを得ることはないからです。天国に行きたい！だから、私はイエスを信じますではなく、自分の罪を悔い改めて、主イエスに従って行こうとすることがなければ、そこには罪の赦しはないのです。しかも驚くべきことは、神がそのようなみわざを為してくださるということです。「神さま、私はあなたに対して罪を犯しました。どうぞ私の罪を赦してください」と、神の前に自分の罪を認めて、そして、「神さま、これからはあなたに逆らって行くのではなくて、あなたに従って行きたいです」と方向を変えるという悔い改めを、私たちが神の前に告白するのは神が私たちの内に働いてくださっているからです。そして、それによって私たちはこのすばらしい救いへと神によって導かれるのです。

だから、私たちは人々にこのキリストをしっかりと宣べ伝えて行くことです。パウロが「**しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、：24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。**」(Iコリント1：23－24)と言った通りです。イエスがいったいだれなのか？なぜ、十字架にかけられたのか？そして、その後どうなったのか？私たちの語るメッセージはこのイエス・キリストだけだと言うのです。キリストが真の神であり、救い主であり、私たちに罪の赦しをもたらしてくれるキリスト＝メシヤであることを人々の前に明らかにすること、それをペテロが行ないました。それが彼のメッセージでした。彼は人々の前で大胆に勇気を持って語り続けたのです。ペテロは「このイエス・キリストが十字架におかかりになり、そして、よみがえった。このイエスこそが、神が約束されていた救い主であり、人としてこの世に来てくださった真・唯一の神だ」と教えたのです。

使徒5：32「**私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。**」と短いメッセージですが、ここでペテロは大切なことを教えています。ご自分に従う者たちに聖霊が与えられる、だれによって与えられるかと言えば、それは神です。ペテロが教えていることは、聖霊が与えられている人々、つまり、神によって罪が赦されている人々、救われた人々のことです。その人たちの特徴は何かというと、神に従って行く者たちなのです。神が聖霊を与えてくださった、つまり、救われたことがどうして明らかになるかというと、完全でなくても、その人が主に対して従順に従って行こうとすることです。わずかなメッセージですが、ペテロはそのような大切なことを教えてくれているのです。「救い」を私たちはどうして得るのでしょうか？ 私たちが自分の罪を悔い改めて、イエス・キリストを自分の救い主と信じて、その方に従って行こうとすることです。その人が本当に救われたのなら、そのことがどのようにして分かるのでしょうか？ それは、その人が神に対して従順に生きて行こうとするからです。

今日、私たちはペテロのメッセージを見て来ましたが、このメッセージを通してペテロが教えていることは、このイエスに対する神と人のあしらい方の違いです。人間はこのイエス・キリストに対して何をしたのでしょうか？ 今まで見て来たように、私たちが救うために、罪を完全に永遠に赦して、永遠のいのちを与えるために神が人となって来てくださり、その方があなたの身代わりとなって十字架で死んでくださった、このように神は私たちが愛してくださっている、でも、その神に対して私たちがしたことは、この方を十字架につけるという選択でした。イエス・キリストを十字架に磔にしたのはだれだったのか？ これは、イエス・キリストを信じないすべての人々です。もし、あなたがイエスを信じていなければ、あなたがイエスを磔にしたのです。イエスを信じて救われた人たちが言えることは、イエスを磔にしたのは私だったということです。でも、感謝なこととその罪は赦されたのです。

ある人々はまだその罪を犯して、まだ赦されていません。なぜなら、この救い主をまだ受けていないから、この救い主を拒み続けているからです。イエスがこの地上に来られた時、人々がしたのと同じようにイエスを拒むのです。拒絶するのです。このお方が備えてくださった救いを受け入れることなく、それは自分にとって必要でないとして、そこに目を向けようもしない、心を開こうもしないのです。イエスが十字架におかかりになったことは人間が神にした最も屈辱的な行為です。なぜなら、みことばが教えるのは「**木にかけられる者はすべてのろわれたものである。**」(ガラテヤ3：13)からです。イエス・キリストを石打ちにしたのではなく、イエスを十字架に磔にしたというのは、「のろわれたもの」、そのような最大の汚名をイエスに着せたのです。それが、人間がイエスにしたことなのです。神に最大の汚名を着せたのです。どれほど大きな罪でしょう！ 私たち、神によって造られた者が創造主なる神に対して行なったことは、彼をのろうことです。このような罪をあなたも私も犯したのです。

ところが、そのイエス・キリストに対して神がなさったことを思い出してください。イエスを死からよみがえらせて、神の右の座に着座させ、イエスに最高の名誉をお与えになったのです。人間はのろった、でも、神は最高の名誉を与えたのです。これまで見て来たように、奇蹟を通して、復活を通して、聖霊を注ぐことを通して、イエスが真の神であり、キリストであることを神は公に証されました。しかし、人間はその方を殺したのです、

イエスを信じた皆さん、私たちがこのキリストの復活を記念する日に覚えることは、これだけの罪を犯して来たにもかかわらず、神は私たちのことを一方的に赦してくださった、イエスを信じる信仰によって完全に赦してくださったことです。もっともっと私たちはこの神の恵みに対して感謝しなければいけません。神がここまで私たちのことを愛してくださらないければ、私たちには救いはなかったのですから…。これほどの侮辱と屈辱を経験してもなお、あなたのためにいのちを捨ててくださったイエス・キリスト…。まだイエスを信じていない人がおられるなら、あなたが今、しっかり考えなければならないことは、あなたは今、このイエスを磔にした人々と同じことをしているのです。私にはイエスなど必要としない、この邪魔者を私の前から除け、この人にはのろいがふさわしいと。神がここまで証明なさった真の神、救い主キリストをあなたは十字架に磔にして、それで良しとされているのです。

今見て来たように「終わりの日」はすでに始まりました。必ず、神の審判の日はやって来ます。あなたはさばき主の前に立たなくてはならない、さばきを受けなくてはならないのです。その日に対する備えができていますか？ あなたの罪は赦されていますか？ それとも、あなたはまだこの主に逆らい続けて行くのですか？ 最後に、もう一度クリスチャンの皆さん、私たちの務めは何かというと、このペテロが私たちに教えてくれます。ペテロたちがこのメッセージを語った時、そこには迫害がありました。でも、その中で彼らが言ったことは「**人に従うより、神に従うべきです。**」でした。だから、彼らは大胆に、十字

架にかかってよみがえった主を証し続けたのです。どのようなことが起ころうとも、これが事実であるがゆえに、そのことを彼らは語り続けたのです。私たちに神が望んでおられることも同じだと思われませんか？私たちがこの復活を覚えて、このすばらしい主に感謝するなら、それを私たちがはっきりとした具体的な形で現わして行くことです。この主を証して行くことです。私たちが救うために来てくださった主を証することです。それがこの使徒たちがしたことでした。そして、神があなたや私に望んでおられることです。私たちの主は人として来てくださった真の神であり、私たちに罪の赦しを与えてくださる唯一の救い主＝キリストです。